

日中経済交流研究会新聞

日中経済交流研究会 2025年7月訪問インタビュー
海外から始まったものづくり企業が描く、次のステージ

～電子機器の受託開発事業の拡大と海外事業のバランス～

開催日：7月10日（木）

報告者：スター電子株式会社 代表取締役 青木 美賢

（大阪南東ブロック／平野支部）



会社概要

所在地：大阪府大阪市平野区喜連1丁目4-30 / 設立：1989年4月 / 事業内容：電気機器の製造・販売 ①電子機器の受託開発 ②射出成型機専用コントローラの設計・製造・販売 ③デジタルパネルメーターの設計・製造・販売

会社の成り立ちと会社紹介

スター電子（株）の始まりは、青木さんのお父様である先代社長が射出成形機の製造会社に勤めていた頃にさかのぼります。当時、その会社の社長から「自社専用のコントローラを開発してほしい」という新規事業の提案があり、先代は開発をすすめていました。しかし、その矢先に勤め先が倒産。開発途中の製品と共に、先代は独立という道を選びました。

独立当初は販路が全くなく、先代は海外市場を切り開くため、各国で開催される展示会を調べては自ら現地に足を運び、直接営業を行いました。その地道な活動が実を結び、まず韓国での取引がスタート。その後、台湾、中国へと取引先を広げ、現在の海外ネットワークの礎が築かれました。

現在、同社の売上の大半は射出成型機専用コントローラによるもので、そのほぼ100%を海外に輸出しています。その他にも、電子機器の受託開発や、デジタルパネルメータ（電圧・電流・温度・回転数など多様な計測値をデジタル数字で表示する機器）の設計・製造・販売を行っています。事業は明確にすみ分けられており、射出成型機関連は海外事業、電子機器受託開発やパネルメータは国内事業として展開。近年は特に国内事業の拡大に力を注いでいます。

国内向けの電子機器受託開発では、お客様の要望を丁寧にヒアリングし、用途に合わせた専用基板を設計・製造。ハードウェア・ソフトウェア両方の技術者が社内には在籍し、部品調達も自社で行います。試作1台から数百台規模の量産まで対応可能で、設計から部品調達、基板実装、組立、検査、納品までを一貫して行える体制を完備。小ロット・多品種の生産に強みを持つ企業として、その技術力と柔軟性を武器に成長を続けています。

現事業の課題と今後の展開

多くの企業は国内事業を軌道に乗せた後に海外進出をめざしますが、スター電子はその逆。創業時から海外市場での販売を先行させてきました。青木さんは社長就任6年目。以前から海外・国内両方の営業を担当しており、海外取引のメリットとデメリット、さらに世界情勢の変化によるリスクも肌で経験してきました。

そうした背景から、外部環境、特に海外情勢の影響を抑えるためには、国内売上比率の向上が重要な課題だと考えています。長年海外中心で活動してきたため、国内での販路や人脈が乏し

く、これまで国内展示会への出展経験もありませんでした。しかし、同友会で築いたネットワークを生かし、今年11月には初めて国内展示会に出展予定。課題克服に向け、積極的に動き出しています。

海外事業についても、日中経済交流研究会に入会するまでは、現地情報については自ら足を運び、直接見聞きして得るしかありませんでした。加入後は、現地企業における商習慣や最新動向など、これまで以上に多くの情報を得られるようになり、その知見を今後の事業戦略に反映していく考えです。

同友会と日中経済交流研究会

青木さんは、平野支部会員である桑野さんの紹介で2018年に同友会に入会しました。今年度は平野支部の例会委員会に所属し、活動しています。とりあえずできることはやるという気持ちで他支部の座長にも挑戦しました。日中経済交流研究会にも参加し、幹事として活躍しています。青木さんは日中経済交流研究会で、中国とがっちり仕事をしている人の話や経験をたくさん聞きたいと期待しています。私は、きっと日中経済交流研究会の会員とのコミュニケーションが青木さんの会社の課題を解決する一助となると確信しています。

感想

今回のインタビューで初めて青木さんとじっくりとお話をしました。誠実で真面目で、考え方がしっかりした方だと思いました。海外と取引をしたいということで日中経済交流研究会に興味を持



つというのが一般的だと思うのですが、青木さんの場合は、既に中国・韓国・台湾といった海外取引が売り上げ構成の主体で、その取引での課題を解決したいという思いから日中経済交流研究会に入会したという珍しいパターンでした。

細かいことはここでは触れていませんので、ぜひ日中経済交流研究会の活動をともにして交流を深めていただけたら幸いです。結びに、スター電子（株）のますますのご発展と青木さんのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

文：日中経済交流研究会 広報委員会
オーツケミカル(株)代表取締役 合田研吾